

特別展

開館 50 周年

今こそ GUTAI

ケンピ 県美の具体コレクション

会期：2020年12月5日(土)－2021年2月7日(日) 開館時間：午前10時～午後6時 ※入場は午後5時半まで
 休館日：月曜日(ただし、1月11日(月)は開館、翌12日(火)は休館)、年末年始(12月28日(月)～1月4日(月))
 観覧料金：一般1,300円/大学生900円/高校生以下無料/70歳以上650円/障がいのある方(一般)300円、(大学生)200円

※予約優先制です。兵庫県立美術館のWebサイトからご予約ください。(電話予約受付窓口を開設しました。TEL：078-262-1011)

主催：兵庫県立美術館、神戸新聞社

協賛：公益財団法人伊藤文化財団、一般財団法人みなと銀行文化振興財団

特別協力：公益財団法人日本教育公務員弘済会 兵庫支部

助成：一般財団法人安藤忠雄文化財団

開催趣旨

兵庫県立美術館では、このたび「開館50周年 今こそGUTAI 県美の具体コレクション」展を開催します。

本展では、所蔵品の中から具体美術協会(具体、1954-1972)の作品を取り上げます。このグループは、戦後の日本美術を語る上で欠かせない“GUTAI”として、国際的にも高い評価を受けています。

1970年の県立近代美術館の開館以来、長年にわたって築かれた当館の「具体」コレクションは、充実した点数、豊かな内容ともに、最も誇れるもののひとつです。この展覧会では、兵庫県立近代美術館から現在にいたる50年間の収集を視野に入れながら、ひとつのイメージに収斂しない多角的な「具体」像を考えます。

リーダーの吉原治良は、現代の美術について「厳しい現代を生きぬいて行く人々の最も解放された自由の場」(「発刊に際して」機関誌『具体』1号、1955年)と記しています。戦後の復興期に立ち上がり、大阪万博の頃まで旺盛な活動を続けた具体。その強靱な精神は、今を生きる私たちにも、力を与えてくれるのではないのでしょうか。



図1 田中敦子《作品》1958年
 兵庫県立美術館(山村コレクション)
 © Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association

展覧会構成

I 最初期の収集 郷土ゆかりの美術として

具体は1954年に結成され、吉原治良の逝去を受けて1972年3月に解散しました。県立近代美術館(近美)開館の頃は、まだグループが存続していた時期にあたります。館の収集の柱は「版画」と「彫刻」そして「郷土ゆかりの美術」の3つ。具体も「郷土ゆかりの美術」として、位置づけられていました。

【出品作家】白髪一雄、元永定正、吉原治良



図2 吉原治良《黒地に赤い円》1965年
 兵庫県立美術館

II 女性作家のめざましい活躍

初期の「具体」の作家や作品には、新奇な手法や派手なアクションといった、行為性と物質性が際立っています。一方で、そのような傾向に合致しない、特異な例外とされる作家たちもまた、グループの中で重要な位置を占め、特徴的な作品を作り出していました。たとえば、最初期から在籍した山崎つる子、田中敦子、白髪富士子らの作品には、新素材への鋭敏な感覚や、壮大な世界観などがみられます。



図3 白髪富士子《作品》1960年
 兵庫県立美術館(山村コレクション)

【出品作家】菅野聖子、白髪富士子、田中敦子、名坂有子、堀尾昭子、森内敬子、山崎つる子



図4 山崎つる子《作品》1961年
 兵庫県立美術館

III 現代美術—山村徳太郎氏と近美の並走

兵庫県西宮市に、企業家にして美術コレクターの山村徳太郎氏がいました。山村氏は、具体の作品をヨーロッパからも買い戻し、1980年代に集中して集めました。同じ時期、近美でも、収集活動が活発化しています。山村氏の没後、そのコレクションはまとまって近美に収蔵されることとなり、一気に収蔵品が増えることになりました。その中には、各会員の具体美術展への出品作など、重要な大作がいくつも含まれています。

【出品作家】上前智祐、浮田要三、金山明、嶋本昭三、白髪一雄、鷺見康夫、前川強、松谷武判、正延正俊、向井修二、村上三郎、元永定正、吉原通雄



図5 嶋本昭三《作品》1961年
兵庫県立美術館(山村コレクション)
© shimamotoLAB Inc.



図6 元永定正《作品 N.Y. No.1》1967年
兵庫県立美術館
© モトナガ資料研究室

IV 多角的な理解に向けて 県美の G U T A I コレクション

具体関連作品の増加を受けて、近美の収集方針の柱に「現代美術」が加わりました。その後もコレクションは拡大を続けます。2002年、阪神・淡路大震災からの「文化の復興」のシンボルとして、現在の場所に移転し、名称が兵庫県立美術館と改められました。2004年にグループの結成50周年を記念する「具体回顧展」を開催したのち、グループの後半期に加入した作家たちが、多くコレクションに加わりました。豊富な点数と幅広い作風は、具体の多角的な理解へとつながります。

【出品作家】今井祝雄、小野田實、喜谷繁暉、木梨アイネ、田井智、高崎元尚、田中竜児、坪内晃幸、堀尾貞治、松田豊



図7 今井祝雄
《白のセレモニー・HOLES#6》
1966年
兵庫県立美術館
© Imai Norio

関連イベント ※新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、予定を変更する場合があります。当館 Web サイトより 最新の情報をご確認ください。

追加

50 周年記念事業 講演会 具体最年少会員であった今井祝雄氏にお話を伺います。

「具体と私」今井祝雄氏 (造形作家、元具体美術協会会員)

2021年1月11日(月・祝) 午後2時より約60分

ミュージアムホールにて(定員125名) 聴講無料 当日先着順

テーマ・レクチャー 当館学芸員が毎回違うテーマでお話しします。

①「素材と技法から見る具体」鈴木慈子、横田直子 2020年12月20日(日)

②「具体18年の歩み、そして今」鈴木慈子 2021年1月10日(日)

③「兵庫県美の50年と具体」江上ゆか 2021年1月24日(日)

いずれも午後2時より約60分 ミュージアムホールにて(定員125名)

聴講無料 当日先着順

水曜日のミニトーク 当館特別展等解説員が作品鑑賞のポイントをご紹介します。

毎週水曜日 午後2時より約30分 レクチャールームにて(定員40名)

聴講無料 当日先着順

こどものイベント「はがきアートでコンクール！」

具体の作家たちも取り組んでいたはがきのアート。あなた一枚をぜひ美術館まで！

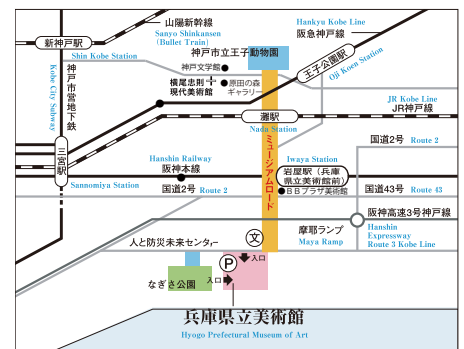
対象部門：①小学生 ②中学生・高校生

応募締切：2021年1月12日(火)※必着

作品展示：2021年1月26日(火)～2月7日(日)

※作品テーマ、作品規定、賞、応募制限、応募方法、応募にあたっての注意事項、返却方法等、詳細は当館 Web サイトをご確認ください。

問い合わせ先：兵庫県立美術館 こどものイベント係 TEL 078-262-0908



【交通案内】

- ・阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分
- ・JR神戸線灘駅南口から南に徒歩10分
- ・阪急王子公園駅西口から南西に徒歩約20分
- ・JR三ノ宮駅南から神戸市バス(29、101系統)
阪神バスにて約15分
HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
- ・地下駐車場(乗用車80台収容・有料)

【お問合わせ】

兵庫県立美術館

(学芸担当：鈴木、橋本、江上)

(広報担当：細田、村上、有田)

〒651-0073

兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903

Mail: press@artm.pref.hyogo.jp

ケンピ
開館 50 周年 今こそ GUTAI 県美の具体コレクション
広報画像申込書

e-mail : press@artm.pref.hyogo.jp / FAX : 078-262-0903 兵庫県立美術館 営業・広報担当宛

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、媒体情報をご記入の上、本紙を e-mail または FAX にてお送りください。
申込確認に数日かかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

図1 田中敦子《作品》1958年 兵庫県立美術館(山村コレクション)
© Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association
※コピーガード対応に限り WEB 掲載可能 (長辺 400pixel 以下、解像度 72dpi) です。

図2 吉原治良《黒地に赤い円》1965年 兵庫県立美術館

図3 白髪富士子《作品》1960年 兵庫県立美術館(山村コレクション)

図4 山崎つる子《作品》1961年 兵庫県立美術館

図5 嶋本昭三《作品》1961年 兵庫県立美術館(山村コレクション)
© shimamotoLAB Inc.

図6 元永定正《作品 N.Y. No.1》1967年 兵庫県立美術館
© モトナガ資料研究室

図7 今井祝雄《白のセレモニー・HOLES#6》1966年 兵庫県立美術館
© Imai Norio

●貴媒体の情報をご記入ください。

○媒体名 (番組・雑誌名等) :

○媒体種 : 新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・WEB・その他 ()

○掲載・放送予定日 : ○参考 URL

○原稿確認予定日 :

※WEB 掲載の場合、いずれかに○をつけてください。 コピーガード対応 可 ・ 不可

●申請者の情報をご記入ください。

○貴社名 :

○所在地 : 〒

○ご担当者名 :

○メールアドレス :

○電話番号 :

【画像使用に際しての注意事項】

○「作家名」「作品名」「制作年」「クレジット」「所蔵先」を明記してください。

▼参考

「作家名」田中敦子
「作品名」「制作年」《作品》1958年
「クレジット」©Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association
「所蔵先」兵庫県立美術館(山村コレクション)

○作品画像の加工(着色、トリミング、文字載せなど)はできません。

○基本情報、画像使用の確認のため、ゲラ・原稿の段階で「営業・広報担当」までお送りくださいますようお願いいたします。

○掲載媒体を1~2部、もしくは URL、同録(DVD、CD)を「営業・広報担当」宛にお送りください。

○画像使用は本展覧会の紹介用のみとさせていただきます(会期終了まで)。

○再放送、転載など二次使用をされる場合には、改めて申請願います。

兵庫県立美術館 取材申込書

取材をご希望の方は下記にご記入のうえ、
取材希望日の3営業日前までに
 メールまたはFAXにてお申込みください。

お申込日 年 月 日

メール送付先: press@artm.pref.hyogo.jp / FAX送付先: 078-262-0903

取材内容

希望日時	第1希望	年	月	日	曜	時	分	～	時	分	
	第2希望	年	月	日	曜	時	分	～	時	分	
	第3希望	年	月	日	曜	時	分	～	時	分	
希望場所											
企画内容											
カメラ撮影	<input type="checkbox"/> あり	スチール	台		ムービー	台		三脚/脚立	台		
	<input type="checkbox"/> なし										
取材人数	人	取材時の代表者名									
媒体種別	<input type="checkbox"/> テレビ	<input type="checkbox"/> ラジオ	<input type="checkbox"/> 新聞	<input type="checkbox"/> Web	<input type="checkbox"/> その他()						
媒体名											
掲載・放送 予定日時	<input type="checkbox"/> 掲載	年	月	日	曜	時	分				
	<input type="checkbox"/> 放送										

ご連絡先	担当者名	
	社名・部署名	
	住所	
	電話番号	
	FAX	
	E-mail	

- * 企画内容によってはご要望に沿えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- * 作品の著作権保護や出展作品のクレジット確認等のため、展示風景や作品の画像使用にあたっては、紙面掲載、番組放送前に原稿を確認させていただいております。校正段階での原稿・映像等を事前に広報専用メールへご提出ください。
- * 掲載媒体を1～2部、もしくはURL、同録(DVD、CD)をお送りください。

〈取材についてのお問い合わせ〉

兵庫県立美術館 営業・広報担当(細田・村上・有田)
 〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
 TEL:078-262-0905 FAX:078-262-0903 Mail:press@artm.pref.hyogo.jp